２００５年度ＪＬＡ中堅職員ステップアップ研修（１）
研修日；１０月１１日(２回)
講師名；明定義人(高月町立図書館)
領域・区分；領域１・区分Ｃ①②
科目名；C①コレクションづくりの考え方
C②コレクションづくりの実際

コレクションづくりの考え方と実際＜本の世界の見せ方＞

０　はじめに　ここでとりあげるのは主に市販されている一般書
児童書やコミック、雑誌などには直接にはふれない
ここでは生活圏にある図書館を想定している
選択と提供の違い
資料収集方針と現実の選書

１　図書館の「棚」が物語ること

１－１　どんな選書がされているのか
分野を担当制にする図書館
選書する人が限られている
選書は集団的な行為である

１－２　図書館内での合意形成・意思決定
そこには図書館員の「本」をめぐる考えが広がっている
貴重な本を大切にする
評論が多く並ぶ
ひたすら時代を追い求める
かくあるべき姿を提示する

１－３　図書館と地域との合意形成
そこには図書館員の「利用者像」が反映されている
利用者との日常的な関係は反映されているか
資料収集方針と選択基準
「図書館の自由宣言」

１－４　「利用者を否定しない棚」
「よくわかる○○○」はよくわかるか
「１５９（人生論)」でみてみよう
「３７０（教育書)」

２　本の世界はどうなっているか

２－１　出版社からみると、入門書・概説書・専門書・実用書・啓蒙書・随筆
　　・雑学・教科書・問題集・資格本
　　下手な鉄砲も数撃てば当る、から、ロングセラーまで

２－２　図書館からみると、
　　主題で分類
　　形態で分類
　　一般補助表

２－３　商業出版以外の資料
　　灰色と白書、と、パンフレット

３　本を選ぶ

３－１　本は仮説だ
　　学問的教理は「仮説」として受けとめる
　　知識の体系と認識の論理

３－２　仮説としての選書
　　「正解」を羅列するのではない

３－３　仮説には選択枝がある
　　二者択一、三者択一、二項分析、……

３－４　選択肢の具体例

４　利用者についての想像力

４－１　階層化時代の利用者像　希望格差社会　都市と農村
　　可処分所得の問題、生活の「多様化」

４－２　予約からのフィールドバック　潜在的ニーズをいかにつかまえるのか

４－３　利用者を「量」として見る　対象とする利用世代を２０年ごとに区切ってみれば
　　１９６０年生れ以前・６０～８０年生・８０～００年生・００年生以降

５　選書をする図書館員としての私

５－１　図書館員であるまえに「私」がある
「私」の相対化
図書館員としての私は、N数の私、いろんなパンツをはいている

５－２　選書をする図書館員の身体と心、そして知識情報力

６　本をどう並べるのか

６－１　ＮＤＣは数字が並んでいるだけじゃない
１００－１５０　と　１６０－１９０　で分れる

６－２　配架の工夫
八広図書館の実践とその後の動向　主題分類と配架分類

６－３　分類変更で見せる
書店の魅力はあちこちに同じ本がある
書店の魅力は買われたら補充ができる

６－４　配置で見せる　書庫が開架になっただけではないか
開架と閉架で見せる
雑誌は雑誌架に並べるだけではない
一般書と児童書の「混配」　高月町でのこころみ

７　おわりに
７－１　利用者と本（知識・情報）の関係をつくりだす役割
仮説として読み、判断する読者・利用者
７－２　利用者の「欲望・欲求」を促すために「棚」はある
「欲望・欲求」を「知的好奇心」につなげる
７－３　「楽しい貸出」に向けて
「楽しい×分る」
「楽しい×楽しくない」